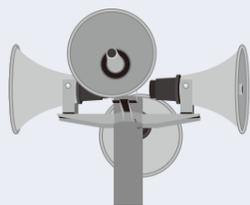


避難時の心得

洪水の中を避難する場合は、特に足元には十分に注意を払いましょう。
また、子どもや高齢者からは目を離さず、手を引くなどの手助けを忘れないでください。

災害情報に注意しましょう

- 避難指示等が出ていなくても、大雨警報が発表されたり、周辺地域で避難指示等が出たときには、自主的に避難行動を起こす準備をしましょう。
- 大きな災害の発生が見込まれる場合は役場から同報系の防災行政無線を使って屋外スピーカーから避難を呼びかけます。音声が届き取れない場合でも、放送した内容を電話で聞き直すことができます。(平成31年4月運用開始)
- また、緊急速報メールや京都府の防災・防犯情報メールでも避難情報をお伝えするほか、町ホームページやNHKデータ放送、FMうじ、広報車など多重的に広報しますので、複数の手段で情報を取得できるようにしましょう。
- なお、防災行政無線の屋外スピーカーや広報車からの避難の呼びかけは、雨戸や風雨の音で聞こえにくい場合がありますので、情報に注意しましょう。



隣近所で声をかけ避難しましょう

- 浸水しているところを避難する際には、2人以上で行い、水に流されないようロープでお互いを結び付けるなど十分に注意して避難しましょう。
- 避難路は高い道路を選び、また河川沿いの道路を避けましょう。側溝や水路に転落しないように、探り棒を持ちましょう。

物を持ちすぎないようにしましょう

- ひもでしめる運動靴などにしましょう。裸足や長靴は避けましょう。
- 非常持ち出し品は、両手を使えるようにリュックなどで背負うようにしましょう。



早めに避難しましょう

- 浸水が始まらないうちに避難しましょう。夜間、雨の中を歩く速度は1時間で1.5kmから2kmが目安となりますが、高齢者や子どもと一緒に歩くと時間はかかります。
- 家財を移動させるのに時間がかかると、避難できなくなることがあります。
- 指定された避難場所への避難が困難なときは、近くの頑丈な高い建物に避難をしましょう。



避難時は戸締まりにも注意しましょう。

○災害時には空き巣被害が増加します。貴重品の管理や戸締まりにも日頃から注意するようにしましょう。

警戒レベル及び避難情報の区分等

警戒レベル	住民が取るべき行動	市町村の対応	気象庁等の情報	相当する警戒レベル
5	命の危険 直ちに安全確保! すでに安全な避難先が確保できず、命が危険な状況、いまだに場所も安全な場所へ向うに移動する。	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	大雨特別警報 土砂災害警戒情報 高潮特別警報	5相当
4	危険な場所から全員避難 過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況、この段階までに避難を完了して済み。 台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	極めて危険 土砂災害警戒情報 高潮特別警報	4相当
3	危険な場所から高齢者等は避難 高齢者等以外の人も必要に応じて、前回の行動を見合わせながら、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	非常に危険 大雨警報 洪水警報	3相当
2	自らの避難行動を確認 ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制) 第1次防災体制 (連絡要員を配置)	注意 大雨警報 洪水注意報	2相当
1	災害への心構えを高める	心構えを一段高める 職員の出発体制を確認	注意 大雨注意報 洪水注意報	1相当

※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。
※2 「極めて危険」(濃い赤)が出現するまでに避難を完了しておくことが重要であり、「非常に危険」(濃いオレンジ)は大雨特別警報が発表された際の警戒レベル5(緊急安全確保)の発令対象区域の絞り込みに活用することが考えられます。

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

避難を始めるきっかけ

氾濫発生	古川 [佐古]	宇治川 [淀]	木津川 [八幡]	桂川 [納所水位観測所]	あなたにとってのべき避難行動
氾濫危険水位	河川の水が溢れるおそれのある水位				避難を完了
避難判断水位	2.2mからさらに水位が上昇	3.5mからさらに水位が上昇	4.0mからさらに水位が上昇	3.5mからさらに水位が上昇	避難開始
氾濫注意水位	2.2m	3.5m	4.0m	3.5m	避難に時間のかかる人は避難開始
水防団待機水位	1.8m	2.5m	2.5m	2.0m	
河川敷 普段の水位					

古川の水位だけ上がる場合は 古川が氾濫した場合、家屋が流失する可能性は低いです。1階の多くは浸水します。2階以上の高いところへ避難してください。

TVによる防災情報の取得

NHK地上デジタル放送のデータ放送で地域の防災情報などを確認できます。

操作手順

- ①TVのチャンネルをNHK(総合)にあわせ、TVのリモコンの「dボタン」を押します。
- ②画面が変わったらカーソルを動かして、見たい情報を選択してください。

〈情報例〉

- ・警報、注意報
- ・台風などの気象情報
- ・避難情報
- ・開設避難所
- ・河川水位情報 など



京都府マルチハザード情報提供システム

インターネットで京都府の被害や地震などのハザード情報を地図形式で提供する京都府のサイトです。作図機能を用いて避難経路図を描くことができます。ぜひご活用ください。

URL <http://multi-hazard-map.pref.kyoto.jp>

複数の災害情報を重ね合わせて表示でき、総合的に状況を判断できます!



日頃からしておくこと

大雨のときに雨漏りや浸水の原因となります。日頃から点検や掃除をしておきましょう。

- (1) 自宅周辺の災害による危険性を把握しておきましょう。
- (2) 非常備蓄品の準備をしておきましょう。
- (3) 家の周りを確認しましょう。

- 屋根瓦の老朽化の状況
- 壁の亀裂の有無
- 雨どいの落ち葉などの詰まり
- 排水溝
- 風で飛びやすい物の固定等

